

〔駐村研究員だより〕

田んぼで米を備蓄する!?

いけ だ とおる
池 田 徹

本年3月23日、千葉県旭市で、「旭市環境保全・循環型農業モデル」（サンライズプラン）設立総会が開催された。旭市、JA旭市、旭愛農生産組合、生活クラブ生活協同組合が同事業に参加する。

当日確認された『構想書』は、「1. モノカルチャー型から、バランスある地域農業を作り出します。地域農業や食文化の多様性を大切に、『生命を育む』産業であるという姿を誇りを持って作り出していきます。2. 生態系を生かし、土づくりを基本にした地域循環型農業づくりを進めます。3. 畜産と米、園芸を組み合わせ、資源を有効に生かして食料生産を進めていきます。」などの理念を謳った上で、「減反田での飼料米の栽培と養鶏での利用、家畜糞尿処理体系の確立、環境保全型有機農業運動の推進」など、多くの事業目標を掲げている。

特に減反田での飼料米栽培は本年度事業として直ちに開始され、市内約100戸の農家が計36ヘクタールの減反田に飼料米を作付けた。穫れる米は全量旭愛農生産組合に養鶏用飼料として供給する。米を食べて育った鶏が生んだ卵を生活クラブ生協の組合員が食べるという事業である。

この事業を「田んぼで備蓄！飼料米栽培事業」と名付けた。

米の持ち越し在庫が370万トンに達すると言われている。私たちは豊作を喜んではいけないのだろうか。減反のために耕作放棄したり、畑に変えたりした田んぼは簡単に復田できないというのではないか。何とかならないのか。そんな素朴な気持ちがこの事業につな

がった。普段は畜産、養鶏に使う飼料用米を栽培し、いざというときには人間が食べることになったらどうか。そうすれば、田んぼは田んぼのままであり続けることができる。だから、飼料用米とはいえ、人間が普通に食べている品種（初星）を作付けした。

トウモロコシの代わりに米を食べさせた鶏は、黄身が白っぽくなるが、栄養のバランスが良くおいしい卵になるという。生活クラブ生協の組合員はこの秋以降少々白っぽく、これまでより少し高い卵を食べることになる。

（といっても、今年の契約量は餌全体の3%程度に過ぎないので、色や価格にそう大きな影響はでない。しかし、今後契約農家を年々増やして行くつもりである。卵の品質上は30%程度まで米にすることが可能と聞いている。）

生活クラブ生協は旭愛農生産組合と20年前から鶏卵の提携を続けてきた。JA旭市との米や野菜類の提携の歴史もほぼ同時期にさかのぼる。行政、JA、生産者団体、生協が参加した「サンライズプラン」という画期的な計画が具体化できた背景には、参加団体が長い時間をかけて醸成してきた信頼関係があると思う。この成果を新たな出発点として、旭市における環境保全・循環型の農業を発展させるとともに、他の提携産地との間でも同様の事業を展望できるような、質の高い提携関係をつくっていきたいと考えている。

参 考

「田んぼで備蓄！飼料米栽培事業」の概要

- ①数量 3千俵
- ②価格 基本価格5千円＋生産調整助成金3千円＝8千円／俵、団地化による上乘せ助成有り（＋1800円～）
- ③栽培品種 初星（ハヤヒカリ、はなの舞、ひとめぼれ）
- ④栽培基準 堆肥施肥、除草剤1回、病虫害防除は基本的に無し

⑤製品規格 加工用米と同様の検査，農協保管，受注により月次出荷

⑥旭愛農生産組合渡し価格 5 千円／俵＋金利，保管料

⑦給餌設計 初年度はコーン（二混）の 3 % 程度を配合

⑧卵価への影響試算 鶏卵 10 個で 5 円のアップ

（千葉市・生活クラブ生協千葉）